

令和5年度富山市SDGs未来都市戦略会議 議事録

日 時 令和5年10月13日(金)15時00分～16時40分

場 所 富山市役所東館8階 大会議室

出席者

<委員>

(五十音順・敬称略)

氏名	団体名・役職	備考
青木 一益	富山大学学術研究部社会科学系 教授	副会長
上坂 博亨	富山国際大学現代社会学部 教授	
北岡 勝	富山市自治振興連絡協議会 会長	
北村 和久	北陸電力株式会社 理事 営業本部 営業本部室長	
久保田 善明	富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科 教授	
齋藤 滋	富山大学 学長	
堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事	
品川 祐一郎 (代理:長谷川 直人)	株式会社品川グループ本社 代表取締役社長	
新庄 一洋	富山地方鉄道株式会社 専務取締役	
土屋 誠 (代理:高野 光由)	日本海ガス株式会社 代表取締役社長	
中村 正美	社会福祉法人富山市社会福祉協議会 専務理事	
成瀬 喜則	富山大学 学長特命補佐	
沼田 雅博 (代理:辻野 秀信)	一般財団法人北陸経済研究所 理事長	
藤井 裕久	富山市長	
藤田 香	株式会社日経BP 日経ESG編集シニアエディター 東北大学生命科学研究科教授、富山大学客員教授	副会長
本田 信次	富山市政策監	
牧野 賢藏	株式会社インテック取締役 専務執行役員	
村上 久	日本貿易振興機構富山貿易情報センター 所長	
若木 洋介	北酸株式会社 環境エネルギー部長	

欠席：浦崎委員、小松委員、田中委員

<事務局>

企画管理部長、企画管理部次長、企画調整課長、松本主幹、八木主任、筏井主任

防災危機管理部次長、福祉保健部次長、こども家庭部次長、市民生活部次長、環境部次長、商工労働部次長、農林水産部次長、活力都市創造部次長、建設部次長、病院事業局管理部次長、上下水道局次長、消防局次長

欠席：財務部次長、教育委員会事務局次長

次第：

1 開 会

2 議 題

(1) 富山市のSDGsの取組状況について

(2) 第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について

(3) その他（意見交換等）

3 閉 会

議事内容

1. 開会

- (1) 藤井富山市長より開会挨拶。
- (2) 事務局より、本日欠席となる委員について報告。
- (3) 事務局より、配布資料について確認。
- (4) 本会議の副会長として、上坂委員及び本田委員が選任されていることについて確認。
- (5) 代理の議長として、上坂委員が選任され、以降、上坂議長の進行により議題を進めた。

2. 議題

(1) 富山市のSDGsの取組状況について

事務局より、資料1「富山市のSDGsの取組状況」を説明。

(2) 第2次富山市SDGs未来都市計画に関連する主な事業及びKPIの達成状況について

事務局より、資料2「第2次SDGs未来都市計画に関連する主な事業」、資料3「第2次SDGs未来都市計画におけるKPIの達成状況」を説明。

(3) その他(意見交換)

事務局より、資料4「本日の意見交換のポイント」を説明。

【議長】

- ・まず、本会議は自由闊達な意見交換を行う場としたい。そこで、本日は、資料4「本日の意見交換のポイント」に基づき、SDGsの促進、拡大に向けて、ご意見・ご提案を伺ってきたい。

【委員】

- ・第2次SDGs未来都市計画のKPIの一つとして「Sketch Labで実施するプロジェクトへの市外からの参加人数」を設定している意図についてお聞きしたい。

【事務局】

- ・主にビジネス面での交流促進等による関係人口の拡大を目指し、指標として設定している。

【委員】

- ・「地域循環型共生圏」の考え方を踏まえて、地域の中で「経済・社会・環境」の三側面の統合的取組を今後どのように展開していくのか。
- ・コンパクトシティ、SDGs未来都市、スマートシティの3つの都市政策を融合し、「経済・社会・環境」の三側面をより統合した事業や取組の実施について、富山市のアジェンダに反映していくべきと考える。

【事務局】

- ・地域循環型共生圏の構築については、昨年度、当市の遊休地に太陽光発電を設置し、その地域内でエネルギーを循環させる事業化計画の検討を行ったが、様々課題があり、事業実施には至らなかった。市としては、再生可能エネルギーの地産地消に向け、引き続き検討していきたい。

【委員】

- ・ 現在、環境や経済の好循環に繋げるため、空き缶や古新聞などの資源回収などに取り組んでおり、循環型社会の実現を目指している。
- ・ 住民は、SDGsを自分事としてどのように行動すれば分からないのが実態である。コンパクトシティやスマートシティなど富山市の政策の方向性について、住民はよく理解しているが、SDGsとの繋がりや具体的な行動については、まだまだ周知されていないと感じる。

【委員】

- ・ エネルギー事業者としては、2030年代早期には2018年比100万kW以上の再生可能エネルギーの電源化を目指している。
- ・ 電源側として、水力、風力、太陽光の電源開発に加え、火力発電にもバイオマス燃料を導入して脱炭素化を進めている。
- ・ 企業の立場としては、女性の活躍、育児支援、メンタルヘルスや生活習慣病対策などの健康経営を強化し、従業員にとって働きやすい環境を整備している。
- ・ 市民のSDGs認知度が9割近くまで上がっていることは非常に素晴らしい成果であり、各施策を振り返りながら効果検証を行うことが重要と考える。

【委員】

- ・ 従来の行政からさらに一步進んで、持続可能な社会の実現に向けて前進することが期待されており、現在、民間企業と連携した取組も実施されているが、さらに多くの民間企業を巻き込む戦略を考えていくべきである。
- ・ 市職員が率先してSDGsに取り組んでいることをアピールすることで、市民がよりSDGsを自分事として考えることが出来ると考える。

【委員】

- ・ 持続可能という観点では、SDGsを通じて民間企業を巻き込み、経済的効果に繋げていくことが必要である。
- ・ こどもたちを含め、市民を広く巻き込む形で、どういったことが出来るのか問いかけを行うことが必要ではないか。これまで積み重ねてきたことを検証するだけでなく、新しい取組を考え、実施する次の段階に来ていると考える。

【委員】

- ・ 富山市では、幅広くSDGsの取組を行っているが、その取組が社会にどのような影響を与えたのかモニタリングしていくことが重要である。現状は、SDGs未来都市計画に位置付けたKPIでの進捗確認が主となっているため、国も参考提示している地域指標の考え方も取り入れて、SDGsの進捗を測ることを強化していただきたい。
- ・ 市民団体やNPOが様々な活動を行っているが、SDGsの達成に貢献する重要な取組として捉えられていないという実態もあることを認識していただきたい。
- ・ 本会議の委員構成について、多様な視点で進めていくという点では、例えば、女性委員を増やすなど、包摂的に進めていくべきと考える。

【委員】

- ・観光、福祉、教育など、様々な分野で活躍している富山市SDGs推進コミュニケーターがチームを組み、こどもから大人まで参加できる未来の修学旅行をコンセプトとした「インクルーシブ未来旅」を開催予定である。
- ・富山北部高等学校と連携して、富山地方鉄道等と共同開発したアプリ「my route（マイルート）」を活用した市内電車スタンプラリーの実証実験を予定している。
- ・社会課題の解決に向けた取組に関心を持つ若者が多く、事業者としても、持続可能性のある取組を事業化し、学生と共に取り組んでいくことが大事なステップと考える。

【委員】

- ・富山市は、公共交通を公共財として考え、交通事業者のノウハウをうまく引き出し、事業者だけで成し遂げることの出来ない運行頻度や運賃制度など、高いレベルの公共サービスを提供することが出来ている。こうしたことが公共交通の利用率をはじめ、富山駅周辺や中心市街地の歩行者通行量の結果に表れていると感じている。
- ・公共交通の利用率は、依然として、コロナ禍前の80%に留まっていると言われる中で、市内電車の利用率は、コロナ禍前を既に超えており、事業者として更なる利便性の向上に努めたい。

【委員】

- ・市内における森林保全活動推進に関する連携協定を3者で締結した。Jクレジットを活用したカーボンオフセットを行うことで、富山市で生み出されたクレジットを市内で利用する地産地消を進めていきたい。
- ・レジリエンスの観点からも、コージェネレーションシステムやガス発電機など、エネルギーの多重化を通じて市民に安心・安全な生活を送ってもらえるよう、ガスエネルギーを高度利用していきたい。
- ・社内の取組としては、SDGsに関する研修会を実施するなど、社員にSDGの意識を浸透し、社員一人ひとりがSDGsの達成に向けて、具体的な目標を設定できる社員を育成したい。

【委員】

- ・「誰1人取り残さない」というSDGsの理念は、福祉分野においても同じ考え方であり、社会福祉協議会では、地域福祉活動計画にSDGsの目標を関連付けしている。
- ・具体的な取組として、フードドライブで提供を受けた食品を必要な方々に有効に活用していただけるよう、積極的につなぎ役として、企業等の活動を後押ししている。
- ・今年度は、社会福祉協議会として、企業に直接フードドライブの実施を呼びかけ、余った食品をひとり親世帯や困窮世帯、困窮学生に配布することを、12月の学校が休業に入る前に実施できるように計画している。今後、取組結果を検証して、次年度以降の継続的な実施を検討していきたい。
- ・今年度、地域食堂やこども食堂を地域で実施したいという方がいたことから、実際に活動に取り組んでいる団体の事例発表や立ち上げのノウハウを実際に学ぶ研修会を実施した。
- ・これまでは地域住民や福祉関係者を対象とした研修会、会議やイベントを実施してきており、今後は、多様な民間企業や各種団体、学生に声掛けし、地域課題の解決に向けて、自分

たちにできることがないか考えてもらう機会を設けていきたい。

【委員】

- ・各学校では、学校教育の中でカリキュラムを工夫しながらSDGsを実施している。
- ・学校外において、親の関わりや気軽に子どもが関わるができる日常的な事業をSDGs教育として進める必要がある。子どもたちにとっては、自ら体験することが非常に重要であり、その体験が自分事に繋がっていくと考える。
- ・現在、主に市内の学校を対象として、マレーシアの学校との交流事業を支援しているが、子どもたちが、国によって取組や考え方の違いを知り、SDGsの取組状況などを比較することも大事と考える。

【委員】

- ・金融機関が企業のサステナブルな取組をサポートするサステナブルファイナンスの評価業務を担当しており、169のターゲットを紐づけて企業の活動を具体的に評価している。
- ・SDGsの17のゴールが浸透している反面、企業が具体的に行動まで落とし込むことが必要となってくるため、ターゲットまで認識を図っていく必要があると考える。

【委員】

- ・SDGsに取り組むことは、地球環境やサステナビリティの面だけではなく、金融の面でも大きな影響をもたらすことを改めて認識する必要がある。
- ・カーボンニュートラルの面のみで取り組むのではなく、自然再興（ネイチャーポジティブ）や循環経済（サーキュラエコノミー）の観点も取り入れたまちづくりを行う必要があると考える。

【委員】

- ・企業を評価する見方が従来までの財務指標だけではなく、SDGsを含む非財務指標である「環境」「社会」「ガバナンス」の面での取組をする動きが主流である。
- ・「多様な人材が生き生きと活躍する社会」が求められており、ダイバーシティや働き方改革を進めている。
- ・高品質なサービスを通じて、安心な社会を目指し、情報セキュリティ、サプライチェーンマネジメント、各分野におけるDX支援に取り組んでいる。
- ・コーポレートガバナンスを高めながら社会の信頼に繋げている。こうした社会的な活動と企業価値の両立が今後ますます重要になっていくものと考えている。

【委員】

- ・昨年、東京から富山に来て、富山の方はなかなか歩かない印象を持った。とほ活アプリを活用して親子で歩くなど、幼少のころから歩くことや公共交通利用を習慣化することが出来ると思う。
- ・世界をみると、サステナビリティや循環型社会が当たり前となっており、企業の事業活動や海外での原料調達においても、こうした観点を踏まえ、官民が連携してSDGsに取り組むべきと考えている。

【委員】

- ・水素ステーションの設置や水素需要調査に取り組んでいる。調査結果では、将来的に県内では21万トンの需要が見込まれるが、そのほとんどが外部調達が必要であり、どのように供給していくか検討している。
- ・燃料水素・アンモニアサプライチェーン構築に向けて、富山大学等と連携協力協定を結び、カーボンニュートラルを目指している。

【委員】

- ・持続可能な都市の実現に向け、様々な取組を推進していく上で強力なプラットフォームが必要と認識している。そこで、コンパクトシティ、スマートシティ、SDGs未来都市として、「経済」「社会」「環境」の三側面の統合的取組によるシナジーや、脱炭素（カーボンニュートラル）・自然再興（ネイチャーポジティブ）・循環経済（サーキュラエコノミー）によるシナジーを生み出すため、その基盤となるスマートシティ推進のためのプラットフォームを構築し、すべてのまちづくりを包括するものにしたと考えている。
- ・持続可能性は、すべてのまちづくりの基本であり、取組の推進に当たっては、官民連携が重要であることから、市で育成したSDGs推進コミュニケーターが、異業種と連携して、自発的に社会課題の解決に向けた取組を行うことは大変素晴らしく、こうした取組が広がっていくことを期待する。

【議長】

- ・SDGsを進めるに当たって、空中戦のような意見がどうしても増えてしまい、実際に市民にどのように届いているのか難しい部分がある。
- ・富山市の取組は、発想や方針、活動も非常に先進的なものが多いが、実際に市民生活にどう落とし込まれていくかも考える必要がある。
- ・企業を巻き込もうとした際に、県内においては企業の大部分が中小企業のため、大手企業だけではなく、中小企業の立場に立って現実的な対策を考える必要がある。

3. 閉会